

## 2024年度 競技者必携改訂、規則等改正のポイント

改正、改訂のうち、試合進行や審判の対応に直接関係あるものを抜粋、整理しましたので、学習時の参考としてください。

スポーツマンシップの徹底	投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような大きな声を発さないこと。 (野球に野次は必要ありません。野次のないクリーンな野球を目指しましょう)
シートノック	シートノックを行うことのできない補助員もいることから、ベンチ前でのサイドノックを認める。
投手の12秒および20秒ルールの取り扱い基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>投手の12秒および20秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッターボックスに入って投手に面した時に始まり、投手が投球動作を開始したときに終わる。</li> <li>20秒ルールの適用は、1度目および2度目であっても3度目と同様に、「タイム」宣告してボールデッドとする。「タイム」の宣告にもかかわらず投手が投球した後のプレイは無効とする。</li> </ul>
投手のベンチ前でのキャッチボール等	次のインングで引き続き投げる投手は、 <u>ベンチ正面</u> でのキャッチボールを禁止するが、 <u>ベンチ外野側角からボール方向のファウルテリトリー</u> での軽いキャッチボールは認める。 また、ブルペンでのキャッチボールは2組4名以内を認める。
試合中、控え選手がグラウンドでできること	試合が開始されたら控え選手は、 <u>むやみにベンチから出てはならない</u> 。 ただし、 <u>次のことを認める</u> 。 <ol style="list-style-type: none"> <li>攻守交代時にファウルグラウンドでランニングをすること。(従来どおり)</li> <li>攻守交代時に自チームの練習をベンチ前で見守ること。ただし、球審の「プレイ」宣告までベンチに戻ることを(改訂)</li> <li>攻守交代時に外野手とキャッチボールをすること。(新規)</li> </ol>
監督またはコーチがタイムをかけ、投手のもとへ行ける回数	<ol style="list-style-type: none"> <li>監督またはコーチ等が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式含む)は1インングに1回行くことができる。ただし、投手交代の場合は回数に含まない。<u>(規則5.10L(2)は適用しない)</u> (下線箇所追記)</li> <li><del>監督またはコーチ等が1インングに同一投手のもとへ2度目に行くか、行ったときみなされる場合—投手は自動的に交代しなければならない。(5.10L)—(2)を削除</del> 《改正の理由》 投手のもとへ行ける回数を1試合に3回と決めているので、1インングに2回行ってもペナルティを適用しない(ルールを分かりやすくするため)。</li> </ol>
ヒット・バイ・ピッチ(死球)の判定	競技者必携2023以前には、「打者が投球を避けようとするのが条件である。 <del>(身体が打者席の捕手寄りではなく後方向に移動すること)</del> 」と記載されていたが、( )内を削除。
抗議権を有する者	監督か当該プレーヤーのいずれか1名(「主将」を削除)。
グラブの取り扱い(全軟連の規制緩和)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハミダシ、紐、指かけ、柄模様についても競技運営ならびに競技者等の安全面に支障がないと判断し、当連盟では制限をしないこととする。野手のグラブについては制限なし。</li> <li>投手のグラブについては捕球面・背面・ウェブは2色まで可。ただし、白/グレー/PANTONEの色基準14番より薄い色の使用は禁止(国内での販売商品はほぼクリア)。</li> </ul>
捕手のマスク(SGマーク)	2025年度より、捕手用マスクへの「SG基準」(SGマーク合格品)が義務付けとなります。

以上